

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 10 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(A)

研究期間：2010～2013

課題番号：22243039

研究課題名(和文) 現代アジアの家族変容と福祉レジームに関する国際共同研究

研究課題名(英文) International Joint Research on Family Changes and Welfare regimes in Contemporary Asia

研究代表者

落合 恵美子(OCHIAI, Emiko)

京都大学・文学研究科・教授

研究者番号：90194571

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 31,700,000円、(間接経費) 9,510,000円

研究成果の概要(和文)：アジアの家族は多様であり、東アジアと東南アジアの違いというような地理的違いにも還元し尽くせないことが、統計的に明らかになった。一枚岩の「アジアの家族主義」の伝統も現実も存在しない。しかし圧縮近代という共通の条件により、国家よりも市場の役割の大きい福祉レジームが形成され、そのもとでは家族の経済負担は大きく、移民家事労働者の雇用と労働市場の性質によりジェンダーが固定され、近代的規範の再強化も見られる。

研究成果の概要(英文)：It has been made clear by statistics that Asian families are diverse and cannot be reduced to geographical differences between East Asia and Southeast Asia. The myth of a monolithic "Asian Familism" tradition is also untrue. However, under the common condition of compressed modernity, welfare regimes have evolved where the role of the market is greater than that of the state and the economic burden of families is large; and in turn through the employment of migrant domestic workers and the characteristics of the labor market we see gender divisions becoming fixed and modern norms being further reinforced.

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：社会学・社会学

キーワード：アジア 家族 労働 移動 政策 メディア レジーム 家族主義

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 10 日現在

機関番号：14301 研究種目：基盤研究A 研究期間：平成22～平成25 課題番号：22243039 研究課題名（和文） 現代アジアの家族変容と福祉レジームに関する国際共同研究 研究課題名（英文） International Joint Research on Family Changes and Welfare regimes in Contemporary Asia 研究代表者 落合恵美子 (OCHIAI, Emiko) 京都大学文学研究科・教授 研究者番号：90194571 交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 31,700,000 円、（間接経費）9,510,000 円

研究成果の概要（和文）：

アジアの家族は多様であり、東アジアと東南アジアの違いというような地理的違いにも還元し尽くせないことが、統計的に明らかになった。一枚岩の「アジアの家族主義」の伝統も現実も存在しない。しかし圧縮近代という共通の条件により、国家よりも市場の役割の大きい福祉レジームが形成され、そのもとでは家族の経済負担は大きく、移民家事労働者の雇用と労働市場の性質によりジェンダーが固定され、近代的規範の再強化も見られる。

研究成果の概要（英文）：

It has been made clear by statistics that Asian families are diverse and cannot be reduced to geographical differences between East Asia and Southeast Asia. The myth of a monolithic "Asian Familism" tradition is also untrue. However, under the common condition of compressed modernity, welfare regimes have evolved where the role of the market is greater than that of the state and the economic burden of families is large; and in turn through the employment of migrant domestic workers and the characteristics of the labor market we see gender divisions becoming fixed and modern norms being further reinforced.

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：社会学・社会学

キーワード：アジア、家族、労働、移動、政策、メディア、レジーム、家族主義

1. 研究開始当初の背景

(1) 近代社会の成立と共に固定された公私の分離が揺らぎ、再編成されているが、アジアにおける変化を導いている論理は、ヨーロッパと同じではない。「圧縮された近代」としてアジア近代をとらえ、「第1の近代」と「第2の近代」が連続、あるいは同時並行して起きていることに注目した理論化の営為が始まりつつあった。

(2) 国家・市場・家族にコミュニティを加えた「福祉ダイヤモンド」の枠組みをもつ「福祉レジーム」論が、福祉研究のためだけでなく、総合社会科学の方法として注目されつつあった。

2. 研究の目的

(1) 「近代」と「第2の近代」が同時進行し、

家族や日常生活のミクロな変容が、福祉国家の建設やグローバル化などのマクロな構造変動と相互作用しながら進行している（日本を含めた）アジア諸社会の現状を、それぞれの地域の研究者との国際共同により調査研究し、それを貫く論理の解明をめざす。

(2) 理論的には、「人びとの生」の質 (well-being) は家族・市場・国家・コミュニティ等の複数の領域の総合的作用によって規定されるとする「福祉レジーム」論の枠組みを採用し、「家族主義」と一括されがちなアジアの福祉レジームの多様なパターンを抽出する。

(3) 雇用の変容、多様な貧困、グローバルな階層化、外国人ケア労働者の導入、メディアを通じたトランスナショナル規範形成等と関係づけながら、ヨーロッパの事例にも学んで、

今後の制度設計の方向性を提案する。

3. 研究の方法

(1) 家族、労働、移動、政策、メディアという5つの研究領域を設け、各領域の研究グループが（アジアおよび欧米地域の）海外研究協力者と国際共同研究を実施した。

(2) 家族領域

岩井八郎、押川文子、落合恵美子（以上京都大学）、ウン・ギス（ソウル大学）、グエン・フミン（ベトナム社会科学院）、パチャラワイ・ウォンブーンシン（チュラロンコーン大学）、ラジニ・パーリワラ（デリー大学）、バドリア・アラマリ（カタール大学）、タン・ジョベイ（プトラマレーシア大学）が各大学の若手研究者と院生と共に参加して国際共同研究を実施した。

東アジア4地域を対象にしたEASS（東アジア社会調査）2006年調査をモデルに、東南アジア・南アジア・西南アジアの5地域において、国際比較質問紙調査（を実施した。ソウル大学との協力により、当初に予定した4地域（ベトナム、タイ、カタール、インド）に加えて、マレーシアでも調査を実施することができた。

EASS2006の公開データと合わせて、アジア社会9地域の家族の実態と意識についての比較分析を行った。

(3) 労働領域

太郎丸博（京都大学）、パク・キョンスク（ソウル大学）、チャン・チンフェン（台湾中央研究院）、ファン・ハナム（韓国労働研究所）、竹ノ下弘久（静岡大学）、大和礼子（関西大学）、阪口祐介（桃山学院大学）、柴田悠（同志社大学）が定期的に研究会を開いて、相互に意見交換と調整を行い、共同して研究を行った。

East Asian Social Survey, Social Stratification and Social Mobility 2005, Korean Labor and Income Panel Survey, OECD.stat 国勢調査などの二次データを使い、比較分析を行った。

(4) 移動領域

安里和晃（京都大学）、青山薫（神戸大学）、上野加代子（徳島大学）、イヘギョン（韓国培材大学）、王宏仁（台湾中山大學）、キャロリン・ソブリチャヤ（フィリピン大学）、アヒルヤニ・ハミド（インドネシア大学）が、また大学院生も参加して国際共同研究を行った。

この領域は資料の制約もあり先行研究の検討や政府統計だけでは不十分であり、政府機関（労働省、保健省、移民省）、NGO、斡旋機関、移住労働者の多方面からの聞き取りを

実施した。

成果については国際学会などで報告することにより、適宜専門家からのコメントを受けた。

(5) 政策領域

落合恵美子、辻由希、城下賢一、織田暁子（以上京都大学）、埋橋孝文、柴田悠（同志社大学）、阿部彩（国立社会保障・人口問題研究所）、川野英二（大阪市立大学）、イト・ペング（トロント大学）、バーバラ・ホブソン（ストックホルム大学）、イルゼ・レント（ボッフム大学）、パット・セイン（ロンドン大学）、ウォラウェート・スワンラダ（チュラロンコーン大学）、シャーリー・スン（南洋工科大学）、ワン・シューユン（国立中正大学）、アン・ミヨン（ククミン大学）、ソフィア・リー（京都大学 梨花女子大学）、ジャン・ヤンシャ（シンガポール大学 ダルサラーム大学）、チャン・ティミンティ（京都大学 ベトナム社会科学院）が参加して、国際共同研究を実施した。

国内およびヨーロッパの卓越した研究者を招聘して、ケアレジーム研究についての理論的枠組みを検討した。

アジアの研究者と毎年1-2回ずつ研究打合せ会を実施し、各国の官庁統計などから比較可能な数量データを収集・分析すると共に、2000年代の各国のケアレジームの変化についてのレビューを行った。

政策決定の背後にある政治家の言説の分析を行った。国会議事録データベースを利用。

(6) メディア領域

伊藤公雄、森下達、朴珍姫、トジラカーン・マシマ（以上、京都大学）、ボンサピタック・サンティ・ピヤ（長崎県立大学）、黄馨儀（同志社大学）、呉咏梅（香港大学）、リー・ミンツォン（国立台湾大学）が国際共同研究を実施した。

アジアのテレビドラマ、広告、マンガなどの分析を通じて、家族・ジェンダー・セクシュアリティ、政治意識、消費文化などに関して生成しつつある規範意識を分析した。

国際シンポジウムを開催して、研究成果に対する国際的オーディエンスからのレスポンスをいただいた。

(7) 総合

複数の領域が関わる研究会やシンポジウムを開催し、領域間の対話と総合をめざした。

共著論文、共著書を執筆する過程で、国際的かつ領域横断的討論を深める。

4. 研究成果

(1) 家族領域

一般的な家族優先意識についてみると、日本は9地域の中で最も低い意識を示していた。他の地域については強い家族優先意識がみられ、その中でもベトナムとインドが特段に強い家族優先意識を持っていることが明らかとなった。

親への経済的援助規範についてみると、日本の援助規範は比較的弱い。一方他国は強い規範を示しているが、援助する主体の性別、結婚状況、また援助される側の親の種類（実親・義親）で意識の差が見られる地域もあった。

実際の金銭的援助行動についてみると、「親から回答者へ」の金銭的援助は、どの地域においても若年層では援助を受けているが、回答者の年齢が増加するにつれて援助の頻度が下がる傾向がみられた。一方、「回答者から親へ」の金銭的援助は、日本以外の国では全年齢層で多い傾向があったが、日本では全年齢層において少なく、特に若年層で顕著であった。これらの結果から、日本以外の地域の若年層は親から援助を受けつつも、同時に親へ金銭的援助をするのが一般的であるのに対し、日本の若年層は親から金銭的援助を受ける方が多いということが明らかとなった。

(2) 労働領域

韓国では、アジア通貨危機後経済は回復し、臨時雇用の比率も減少したが、第一次労働市場と第二次労働市場のあいだの移動はむしろ難しくなっている。

台湾では近年、ほとんどの職種と産業、学歴、で男女とも失業リスクは高まっているが、日本では女性、低学歴など、もともと周辺の労働者や職種で特に失業リスクが高まっている。

性別職域分離は、脱工業化の程度とジェンダー平等主義的なイデオロギーの強さと強く関連しており、そのことは国による性別職域分離の相違だけでなく、国内の地域間の違いについてもあてはまる。

階層帰属意識の規定要因を、日本、中国、台湾、韓国の4カ国で比較すると、多少の違いはあるものの、世帯収入や資産といった経済的要因が非常に強い効果を持っており、学歴や文化資本といった要因の効果は非常に弱い。

以上の成果について、太郎丸博編『東アジアの労働市場と社会階層』（京都大学学術出版会、2014年）を刊行した。

(3) 移動領域

これまで女性の就労支援策と考えられてきたシンガポール、香港、台湾など東アジア

各国の外国人家事労働者の導入は、高齢者介護策として高齢者世帯に対する減税、補助金を実施するなど家族ケア促進策となっている。

家事労働者の雇用促進は性役割分業の固定化を前提とした女性の就労支援であり、性役割分業の固定化と労働市場におけるジェンダー平等というねじれが生じている。ただし経済政策の観点でみると一貫したものである。

東アジア地域における家族ケアの強調と家事労働者の雇用促進策は、介護の社会化交渉を弱める働きをしており、福祉レジームの分岐の契機となる可能性がある。

受け入れ国の介護概念は人口構成の異なる送り出し国のそれと異なっている。そのため、看護師を雇用する over-qualification や家事労働者など無資格者が医療行為に従事する under-qualification が人材育成上の新たな課題として浮上している。

(4) 政策領域

日本は半圧縮近代、それ以外の東アジア・東南アジア諸国は圧縮近代と捉えることにより、アジア地域と欧米地域との近代の経験の違い、およびアジア地域内の多様性のかなりの部分が説明できることが示された。

ケアレジームの比較分析においては、家族、市場、国家、コミュニティというケアダイヤモンドを構成する4つのセクターから提供されるケア時間を用いてセクター間のバランスを検討するケア時間ダイヤモンド（韓国の共同研究者アン・ミョン氏の考案した枠組）という分析枠組みを採用し、柴田悠・辻由希らが新たな2種類の推定方法を考案した。

アジア地域のケア関連政策については、福祉国家建設による脱家族化政策は日本・韓国などで見られるが、欧米圏ほど発達していない。市場の利用を促進することによる脱家族化政策は多くのアジア諸国で見られる。ワークライフバランスの促進などの家族化政策は日本・韓国などで見られる。他方、親孝行の法制化などの方法による家族化政策という欧米圏に見られないタイプの政策をとっている国もある。

(5) メディア領域

福祉レジームのあり方と密接にかかわる、家族・ジェンダー・セクシュアリティや政治意識などをめぐって、日本、台湾および韓国のテレビドラマを対象に共同研究を実施した。一例としては、同一日本のマンガ（「花より男子」）を原作とし、日台韓でほぼ同時期にテレビドラマ化された映像を素材とした。その結果、消費文化という点ではもっと

も華やかでありながら、伝統的な血縁関係を強く映し出す韓国バージョンに対して、家族関係の強さの一方で血縁が必ずしも強調されない台湾バージョン、さらに親族関係の描写が相対的に弱い日本バージョンなど、同一の原作をもつにもかかわらず、当該社会や文化の特徴が浮き彫りになった。

アジアのテレビ広告におけるジェンダー役割や家族像に関する日本・中国・台湾・タイの国際比較研究を実施した。保険の広告では、責任をたねばならない家族の範囲が核家族よりも広い社会が多いことが明らかとなった。

(6)総合

『変容する親密圏／公共圏』シリーズ(京都大学学術出版会) *The Intimate and the Public in Asian and Global Perspectives* シリーズ(ブリル)などとして成果の刊行を開始した。

ヨーロッパ日本研究学会(EAJS)日本大会(2013年)をはじめとして、多くの国際学会・国内学会で成果を発表した。

英語など外国語での研究論文を多数発表した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計66件)

落合恵美子、「近代世界の転換と家族変動の論理：アジアとヨーロッパ」『社会学評論』64-4、2014、pp533-551、有。
大和礼子、「“父系”と“性別分業型双系”の並存」から新しい世代関係へ 少子高齢化とグローバル化による世代関係の変化」『ソシオロジ』58巻2号、2013、pp116-118、有。

ポンサピタックサンティ ピヤ、「保険のテレビ広告における主人公の年齢層とジェンダー役割 日本とタイの国際比較研究」『東アジア評論』第5号、2013、pp31-45、有。

川野英二、「大阪市民の貧困観と近隣効果 貧困層は対立しているのか？」『貧困研究』第9号、2012、18-29、有。

UENO, Kayoko, “Love Gain: Transformation of Intimacy among Foreign Domestic Workers in Singapore”,

Sojourn, March, 2013, pp36-63, 有。

ASATO, Wako, “Nurser from Abroad and the Formation of a Dual Labor Market in Japan”, *Southeast Asian Studies* Vol.49-4, 2012, pp642-669, 有。

KAWANO, Eiji, “Insecurite de l’emploi et insecurite de parcours des travailleurs japonais”, *Informations Sociales* 168, 2011, pp22-29, 有。

平尾一郎・太郎丸博、「世代間移動レジームにおける非正規雇用の位置」『理論と方法』26巻、2011、pp355-370、有。

Daniele BELANGER, UENO, Kayoko, Khuat Thu HONG and OCHIAI, Emiko “From Foreign Trainees to Unauthorized Workers: Vietnamese Migrant Workers in Japan”, *Asian and Pacific Migration Journal* 20(1), 2011, pp31-53, 有。

OCHIAI, Emiko, “Unsustainable Societies: The Failure of Familialism in East Asia’s Compressed Modernity”, *Historical Social Research* 36, pp219-245, 2011, 有。

ポンサピタックサンティ・ピヤ、「アジアのテレビ広告におけるジェンダー役割 日本・中国・台湾・タイの国際比較研究」『日経広告研究所報』255号、pp27-32、2011、有。

UENO, Kayoko, “Identity Management among Indonesian and Filipina Migrant Domestic Workers in Singapore” *International Journal of Japanese Sociology* (Japan Sociological Society) 19, pp82-97, 2010, 有。

[学会発表](計78件)

OCHIAI, Emiko (Tran Thi Minh Thi 共同報告), “Socialist legacy in gender and family policies: Comparing transitional societies East and West”, International Workshop on Vietnamese Families in the Context of Industrialization, Modernization and Integration in Comparative Approach, Vietnam Academy of Social Sciences, 2013.11.6-11.10, 招待講演。

OCHIAI, Emiko, “Familialism as a cause of muen shakai (disconnected society): an ironical contradiction”, インドネシア日本研究学会 2013年シンポジウム「現代日本社会の無縁社会現象」 Dian Nuswantoro University, 2013.11.26-11.30, 基調講演。

AOYAMA, Kaoru, “Sexwork and Participatory Action Research in Japan”, SWSA RESEARCH SEMINAR SERIES 2013, The University of Hong Kong, 2013.3.28, 招待講演。

YAMATO, Reiko, “Is the norm of Patri-locality Applied to Older Mothers and Fathers in the Same Way?”, ISA

RC06-CFR Kyoto Seminar, Kyoto University, 2011.9.13.
ASATO, Wako, 「給人口構成带来变化的
人的国际移动」, 人口移动、家庭、公民
权 东亚朝鲜族的亲密领域和公共领域的
变迁, 延边大学, 2011.8.8, 招待講演。
OCHIAI, Emiko, “ The Paradox of
Familialism: Why are the East Asian
Societies Unsustainable?”,
International Symposium on Family
Values in Korea, China and Japan, コリ
アナホテル (韓国) 2011.5.13, 招待講演。
〔図書〕(計 30 件)

OCHIAI, Emiko and Kenichi Johshita.
Sirin Sung and Gillian Pascall eds.
*Gender and Welfare State in East Asia:
Confucianism or Equality?*, Palgrave.
pp.216, 2014 .

太郎丸博、大和礼子、チャンチンフェン
他、太郎丸博編『東アジアの労働市場と
社会階層』京都大学学術出版会、240 頁、
2014。

OCHIAI, Emiko, UENO, Kayoko,
AOYAMA, Kaoru, OSHIKAWA, Fumiko,
Khuat Thu Hong, Lee Hye-Kyung,
Asian Women and Intimate Work
(Ochiai, Emiko and Aoyama, Kaoru
eds.), Brill, pp 314, 2014.

Minamide, Kazuyo and OSHIKAWA,
Fumiko (eds.), *Ritht to Education in*
South Asia: Its Implementation and
New Apporaches (CIAS Discussion
Paper No.24), Center for Integrated
Area Studies, Kyoto University, pp64,
2012.

上野加代子、『国境を越えるアジアの家事
労働者 - 女性たちの生活戦略』、世界思想
社、258 頁、2011。

〔産業財産権〕

出願状況 (計 0 件)

名称 :

発明者 :

権利者 :

種類 :

番号 :

出願年月日 :

国内外の別 :

取得状況 (計 0 件)

名称 :

発明者 :

権利者 :

種類 :

番号 :

取得年月日 :

国内外の別 :

〔その他〕

ホームページ等

6 . 研究組織

(1) 研究代表者

落合恵美子 (OCHIAI, Emiko)

京都大学文学研究科・教授

研究者番号 : 90194571

(2) 研究分担者

伊藤公雄 (ITO, Kimio)

京都大学文学研究科・教授

研究者番号 : 00159865

(H22 ~ H23 研究分担者)

岩井八郎 (IWAI, Hachiro)

京都大学教育学研究科・教授

研究者番号 : 80184852

(H22 ~ H23 研究分担者)

押川文子 (OSHIKAWA, Fumiko)

京都大学地域研究統合情報センター・教授

研究者番号 : 30280605

太郎丸博 (TAROHMARU, Hiroshi)

京都大学文学研究科・准教授

研究者番号 : 60273570

(H22 ~ H23 研究分担者)

大和礼子 (YAMATO, Reiko)

関西大学社会学部・教授

研究者番号 : 50240049

安里和晃 (ASATO, Wako)

京都大学文学研究科・准教授

研究者番号 : 00465957

(H22 ~ H23 研究分担者)

上野加代子 (UENO, Kayoko)

徳島大学 ・ ソシオ・アーツ・アンド・サ
イエンス研究部 ・ 教授

研究者番号 : 50213377

青山薫 (AOYAMA, Kaoru)

神戸大学国際文化学研究所・准教授

研究者番号 : 70536581

姫岡とし子 (HIMEOKA, Toshiko)

東京大学文学研究科・教授

研究者番号 : 80206581

川野英二 (KAWANO, Eiji)

大阪市立大学文学部・准教授

研究者番号 : 20335334

ポンサピタックサンティピヤ (Piya

Pongsapitaksanti)

長崎県立大学国際情報学部・准教授

研究者番号 : 60555481

(3) 連携研究者

()

研究者番号 :